

トルコの政策金利引き下げについて

10月23日（現地時間）、トルコ中央銀行（トルコ中銀）は政策金利としている1週間物レポ金利について、現状の40.50%から1.00%引き下げ、39.50%にすることを発表しました。1.00%の引き下げ幅は、市場予想通りでした。また翌日物貸出金利および翌日物借入金利も同水準引き下げました。

トルコ中銀は、内需は依然として弱いものの、9月のインフレ率の上昇がディスインフレ（インフレ鎮静化）プロセスの減速を示していると表明しました。特に食品価格の最近の動向が、インフレ期待や価格設定行動を通じ、ディスインフレプロセスに及ぼすリスクが顕著となっていることを指摘しました。トルコ中銀は、物価安定が達成されるまで金融引き締め姿勢を維持すること、またその金融引き締め姿勢維持が、内需の減速、為替の安定化、インフレ期待の改善を通じてディスインフレプロセスを強化すると期待していると表明しました。

トルコ中銀は、実際のインフレ率とインフレ期待、およびトレンドを考慮した上で、ディスインフレに必要な政策金利を決定し、インフレ見通しを慎重に見極めつつ、会合毎に決定していきます。インフレ見通しが8月に設定した暫定インフレ目標値から大きく乖離した場合、金融政策スタンスは更に引き締められます。トルコ中銀は、クレジットおよび預金市場で予期せぬ事象が発生した場合、追加のマクロブルーデンス措置（金融システム全体の安定性を維持し、システミックリスクを管理するための政策や規制手法）を通じて金融政策の伝達メカニズムを支える考えです。トルコ中銀は、流動性の状況を注意深く監視し、引き続き効果的に流動性管理手段を講じていく方針です。

今回のトルコ中銀の決定は、市場予想通りでした。市場の反応は小幅にプラスとなりました。

金融引き締めと実質金利の上昇は、内需の減速を通じてトルコ経済に悪影響を及ぼしてきました。2025年4～6月期のGDP成長率が前年比と市場予測を上回った後、一部のアナリストはトルコ中銀の政策スタンスが十分に引き締められているか疑問を呈しています。トルコ中銀は内需を抑制する適切な措置を講じていると考えていますが、インフレ率を現在の水準からさらに低下させることは、以前のデフレ局面と比較してより困難な状況になっています。過去の物価上昇に基づく価格設定行動が、ディスインフレプロセスの進捗を鈍化させることに加え、トルコ固有の要因も状況を複雑化させているためです。例えば、過去の傾向から、トルコ人投資家は価値保存手段として金を保有する傾向があります。昨今の金価格上昇は、トルコ人投資家に資産効果を生み出し国内消費を支えているため、トルコ中銀のディスインフレプロセスの進捗を遅らせています。実際、トルコ中銀総裁は、直近の記者会見で金の価格上昇の資産効果がもたらす課題を公に認めており、トルコ中銀も本日の決定でディスインフレプロセスの減速を強調しました。

課題はあるものの、トルコ中銀が長期にわたり過度な引き締め政策のスタンスを維持する可能性は低いと見ています。特に金融政策の遅行効果を考慮すると、長期にわたる実質金利の高止まりは意図以上に成長を鈍化させる恐れがあるためです。12月の今年最後の金融政策決定会合では、特に主要な世界の中央銀行も年内の政策金利の引き下げが予想される中、トルコ中銀も緩和サイクルを継続すると見込んでいます。

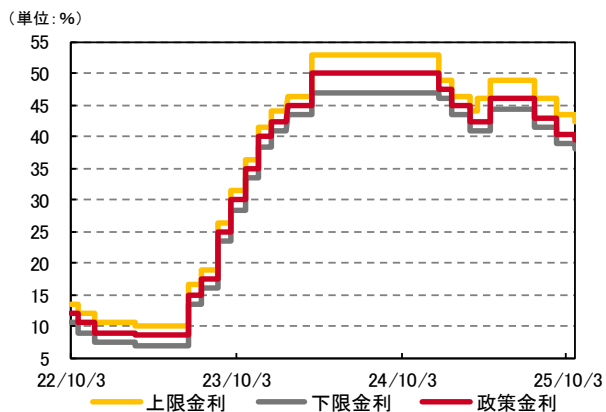
トルコ中銀にとって、政策金利はディスインフレプロセスの唯一の手段ではありません。トルコ中銀は利下げ幅の調整には慎重に対応しつつ、信用拡大管理やコミュニケーションツールの活用といったマクロブルーデンス措置を通じて金融緩和を補完すると予想しています。

一方、トルコ国内の政治リスクの高まりを受け、トルコ中銀は国内個人投資家の動向に注視し続けるでしょう。制御不能な通貨安がディスインフレプロセスを損なう可能性があります。トルコリラの変動性抑制と急激なドルへのシフトを防止するため、必要に応じて追加措置を講じると予想しています。

（各種情報を基に当社が作成）

政策金利の推移

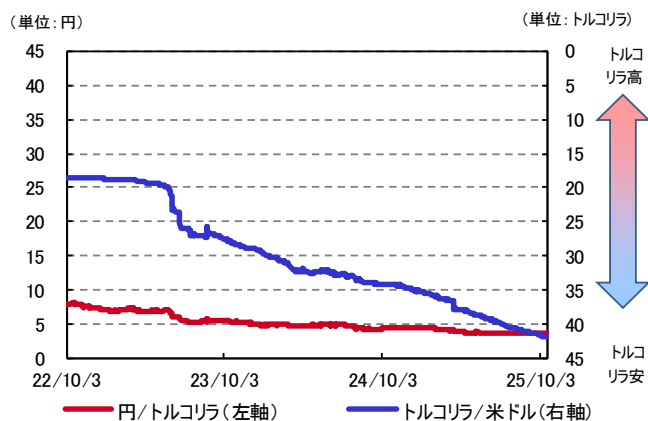
2022/10/03～2025/10/23



出所: Bloomberg

為替レートの推移

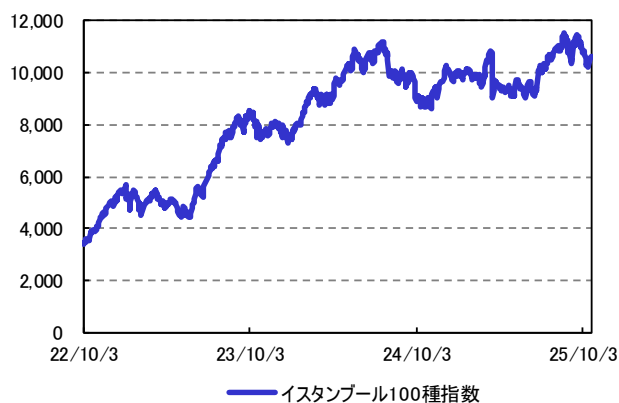
2022/10/03～2025/10/23



出所: Bloomberg

株式市場の推移

2022/10/03～2025/10/23



出所: Bloomberg

[投資信託をお申込みに際しての留意事項]

| 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客さまのご投資された金額を下回ることもあります。
また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

| 投資信託に係る費用について

[ご投資頂くお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

購入時に直接ご負担いただく費用	購入時手数料 上限3.85%（税込み）
換金時に直接ご負担いただく費用	信託財産留保額 上限0.5%
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	信託報酬 上限2.09%（税込み）
その他の費用等	上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。 「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。 交付目論見書、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

※当該手数料等の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、SOMPOアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく交付目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

SOMPOアセットマネジメント

SOMPOアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第351号
加入協会／一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のご利用にあたっての注意事項

- ◆ 当資料は、SOMPOアセットマネジメント株式会社により情報提供を目的として作成された資料です。したがって、勧誘を目的としたものではありません。また、法令等にもとづく開示書類ではありません。
- ◆ 投資信託は、主として値動きのある証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の成果等を保証するものではありません。当資料は弊社が信頼できると判断した各種情報に基づいて作成されておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。投資信託をお申し込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りの上、詳細をご確認ください。また、お申込みに関する決定は、お客さま自身でご判断下さい。